

# 絵画製作における集団指導



佃 範 夫

## (一) なんのために絵画製作をするのか

ある研究会で若い女の先生が、「全くつまらぬ質問で恐縮ですが、幼稚園で絵画製作をしなければならぬわけを教えてください」と真剣な顔付で尋ねた。すると「何だそんなことも知らない」とでもいいたげな表情で会員の何人かが笑った。しかし一般に子どもの取り扱いをどうするか、素材をどう与えるというようになことについて熱心でよく研究している先生でも、このような根本問題になると、わかったようでわからないものである。

一般に幼児に絵画製作をやらせるのは、なにも画家や彫刻家をつくるためのものでもなければ、芸ごとを身につけさせておくためのものでもなく、よりよき人間形成のためだといわれている。

幼児が思ったこと、感じたことを自由に表現することによって

情緒の安定をはかり、いろいろな素材にふれ、またそれを通して物をつくり出すことによって生活を豊かにし、自分の意志の感情を素朴ではあるが人に伝えることを身につけ、材料・用具の準備、後始末、友だちとの協力などにより社会性を伸ばし、美的情操の基礎をつちかい、全人としての豊かな個性の形成をはかるなど絵画製作の重要な要素をあげることができるが、要するに人間形成のためである。

しかしこの「人間形成のために」ということはあらゆる教育の目的でもある。とするならば、絵画製作でなければなし得ない人間形成の分野は何であるか。しかもそれが幼児期という時期に、幼稚園という集団教育の場で行なわれるとすれば、そこでこそやらなければならないものは何であるかというようなことが明らかにされなければならない。しかしこのことはたいへん難かしいこ

とである。何故なら絵画製作による人間形成も人によって重点のおきどころが違っているからである。

すでに絵画製作の重要な要素についてふれたことから多少見当がついた人もあると思うが、同じ芸術教育でも、音楽リズムなどの教育との相異はどこにあるか、絵画製作と幼児期という時期との関係はどうか、集団指導でとくに気をつけねばならない点は何か、などを追求することにより、これらの問題は自ら明確になってくるものと思う。そしてここでは与えられたテーマが集団指導における絵画製作ということであるから、そのような点について二、三考えてみたい。

## (一) 絵画製作における集団指導

### (1) 豊かなテレをつくるために

人は他に対する関係によってさきえられており、何らかの意味で他との関係をもっている。これをモレノはテレ(2C)といったが、どのような人にもどのようなテレを出しているか、またどのようなテレを求めているかによって、その人のパーソナリティーをうかがい知ることができるというのである。即ちパーソナリティーの特色はテレの構造の特色なのである。テレには牽引のテル(愛)と反発のテル(憎しみ)があり、強い弱いもあるが、テレが豊かなほどパーソナリティーは円満であるといわれている。そして

テレのうすい人はパーソナリティーに欠陥が生じるといふ。例えば、精神分裂病者の症状は、テレが非常に弱くなった時の状態であり、外に對して「えん」がきれ自分だけにとじこもってしまっているし、非行少年のテレは一般に貧弱であるといわれている。

(非行少年の場合は特殊なテレをもっている場合も多い) 非行少年のかつての恩師である幼稚園や小学校の先生に、その子について尋ねてみると、とても「いじわる」で困ったというのは稀で、「そんな子いましたかね」と首をかしげる場合が多い。クラスの人気者でもまた嫌われ者でもなく人間関係のうすい孤立児が非行少年になりやすいということである。

したがって私たちにとってたいせつなことは、テレが貧弱にまた弱くならないよう、他からの働きかけによって、テレが円満に豊かに育つよう指導していくことである。

絵画製作もこのような側面をになわなければならない。とくに絵画製作における集団指導においては重要である。絵画製作そのものの指導もたいせつだが、それだけでなく、そこに用意される人間関係の技術に注目して絵画製作の指導を進めていくことを考えねばならない。

一しよに考え、共に経験した楽しい体験を土台にして、一しよにつくり出していく過程に、円満なパーソナリティーの発展を期待したい。

私たちは子どもをして孤立におこまないように、また特別な子どもとの間に特殊なテレをもたないよう人間関係を調整しつつ、その関係の中で一人ひとりの子どもが発展することを期待する。そしてそのようなことがうまく進められるよう絵画製作をもちこみたい。

## (2) 表現意欲を高めるには

「何でも思いのままにかきなさい」といつても子ども自身に気がなければだめである。どのようにすれば子どもがかく気になるか、つくる気持になるかということが問題である。子どもの心の中に表現意欲をわきたたせることが必要である。それにはどうすればよいか。

まず表現に対する興味・関心をもたせるということである。しかしこのことは難かしい。だが集団指導だと案外おたがいに刺激し合って効果があるといわれている。私たちは場の構成をどのようにすればよいか、また雰囲気・材料などをどのようにすれば意欲をおこさせることができるか、また話し合いをどのような形で進めていけばうまくいくか、などについて考えてみなければならぬ。一人ひとりの傾向(例えば描画傾向など)を考慮して隊型を考えるのも一つの方法であろう。グループ編成に工夫さえすれば、グループ指導によるのもよからう。話し合いによりヒントをつかませることもよからう。

要するに適當な配慮によって、おたがいが刺激し合って表現意欲をおこす動機づけになるならば、これこそ集団指導における利点の一つであろう。

## (3) 望ましい共通の体験を

いくら興味わいてきても表現できない子どもがいる。これは指導者や両親にも問題があるが、いくらかきなさいといっても、かけるような経験、内容がなければだめで、結局はお人形さんばかりをかき、自然と概念化してくるのである。「何かかきなさい」といつても無いものは無いのであるから、ますますかけない子どもになる。したがって何よりもたいせつなことはまず表現できるような内容を経験させておくことである。しかも時に共通の体験をさせておくと、集団指導の場合効果的である。ホタル狩りや火花をさせるのもよい。幼稚園の臨海保育に参加させるのもよい。

このような体験を通しての話し合いは活発であり、したがって表現活動のきっかけもつかみやすい。そして心の中のものをひき出すように指導しさえすればよい。

要は表現できるような内容を用意しておくことであり、ひき出し得る何物かを体験させておくことである。

## (4) 模倣させないように

集団指導だと、集団の人数にも関係するが(集団指導の場合は人数の考慮が必要である)人のまねをする子どもが多く出てくる

可能性がある。内気の子ども、依頼心の強い自信のない子どもに多くみられる。しかしこのことは指導者のちょっととした注意で防ぐことも可能である。

模倣しているのをみた時には、適当なアドバイスをして、例えば、「まずくともいいから人のをまねてはいけません。自分の思うことを、考えた通りのことを、さら、あなた、さっきの話合いで動物がおもしろかったといったじゃないの」というようにきつかけをつくってやって、自分のものを表現させるように指導することがたいせつである。そして何か自分で表現しようというような徴候がみえた時には、さらに勇気づけてやることである。この勇気づけはタイムリーであることが必要である。タイムリーに励まし、タイムリーに勇気づけて、自信をつけさせることである。そしてどんなにまずくできても励ましてやることを忘れてはならない。へんな劣等感をもつと手のつけられない子どもになる恐れがあるから。

もし劣等感をもって全く表現しない子どもがいたとしたら、材料・方法などを考えることによって劣等感を取り除くことに力をそそがねばならない。この場合デザイン教育やモダンテクニックが有効である。

さて模倣してはいけないといっても模倣しやすいような隊型では困る。子どもの性格や表現傾向などを充分考慮して子どもの位

置をきめることもたいせつである。

またややもすれば集団指導だと表現しない子どもをつい見逃すことがある。このようなことのないようにとくに注意することも忘れてはならない。

#### (5) きまりのある子どもに

人間らしい人間づくりに究極の目的があるとすれば、絵画製作において、その前後の始末をさせることはたいせつなことである。私たちは後始末や準備をさせるような「しつけ」を通して、きまりのある子ども、協調性のある子どもに育てるよう注意したいものである。

#### (6) その他

次にたいせつなことは、子どもの発達段階に応じた指導ということである。このことについてはまた別のところで詳しく述べられていと思うので省略する。

以上断片的にしかも思いつくままに述べてきたが、最後に忘れてはならないことに準備がある。経験、環境づくりなどをふくめての準備である。充分準備をととのえておきさえすれば、動機づけもうまくいくであろうし、したがってその中での子どもは生きいきと表現することの喜びを体験していくに違いないと思う。

(香川大学)